2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社シンカ　　上場取引所　東
コード番号　　149A　　ＵＲＬ　https://www.thinca.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）江尻高宏
問合せ先責任者　（役職名）執行役員CFO　　（氏名）飯田裕樹　　ＴＥＬ　03-6721-0415（代表）

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	1,332	24.6	△289	－	△293	－	△297	－
2025年12月期第３四半期	1,069	19.3	58	8.2	59	136.2	46	239.7

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	△90.28	－
2025年12月期第３四半期	14.63	14.07

（注）2026年12月期第３四半期の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、１株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	1,148	896	78.1
2025年12月期	1,279	1,047	81.9

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　896百万円　2025年12月期　1,047百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2026年12月期	－	0.00	－		
2026年12月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,858	26.9	△579	－	△580	－	△546	－	△170.12

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	3,416,300株	2025年12月期	3,206,320株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	―株	2025年12月期	―株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	3,292,480株	2025年12月期３Ｑ	3,182,034株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、決算補足説明資料をTDnetで本日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しております。また、本日18:30より決算説明会をオンライン配信にて開催する予定です。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 2
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 6
（セグメント情報等の注記） …… 6

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当第３四半期累計期間（2026年１月１日～2026年９月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や企業の堅調な設備投資を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇の長期化による個人消費への影響、金融政策の正常化に伴う金利動向、為替相場の変動、さらには海外の通商政策や地政学的リスクの高まりなど、先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社が事業を展開するクラウドサービス市場におきましては、構造的な人手不足の深刻化を背景とした業務効率化・省人化ニーズの一層の高まりに加え、生成AIをはじめとするAI技術の急速な進展と実用化が進んでおり、企業の顧客対応業務におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）及びAX（AIトランスフォーメーション）に対する需要は引き続き拡大しております。また、2026年10月に施行されたカスタマーハラスメント対策の義務化等、企業に対して顧客対応の記録・可視化を求める制度面の動きも、当社サービスに対する需要を後押しする要因となっております。

当社は、経営理念「ITで世界をもっとおもしろく」のもと、企業のコミュニケーションを「見える化」するコミュニケーションプラットフォーム「カイクラ」の開発・提供を主たる事業として展開しております。「カイクラ」は、電話・SMS・メール・ビデオ通話といった多様な顧客接点を一つの基盤上で一元的に管理し、着信時の顧客情報ポップアップ、通話の自動録音・自動文字起こし、対応履歴の共有等の機能を通じて、企業の顧客対応業務の効率化と顧客体験（CX）の向上に貢献しております。主に自動車販売業（ディーラー）、不動産業、医療・介護業をはじめとする、電話を中心とした顧客対応が事業の根幹をなす業種を中心に導入が進んでおり、継続課金型（サブスクリプション）のストック型収益を収益基盤としております。

当社は、当事業年度を「非連続な成長への転換点」と位置づけ、中長期的な企業価値の最大化に向けて、人材採用・育成、広告宣伝、研究開発、及びAI技術の活用等の成長投資を計画的かつ積極的に実行しております。これらの先行投資は、足元の収益を一時的に圧迫するものの、ストック型収益の積み上げと将来の成長加速及び収益性の改善を企図したものであり、当社が掲げる中期的な成長目標の達成に向けた基盤づくりと位置づけております。

当第３四半期累計期間におきましては、「カイクラ」の継続的な拡販に努めるとともに、顧客の多様化するニーズに迅速に対応するため、新機能の開発・実装を継続的に進めてまいりました。とりわけ、生成AIを活用した機能の拡充に注力し、2026年６月の「AI送信文作成サポート機能」に続き、2026年７月には顧客からの問い合わせに生成AIが自動で応対する「AIチャット機能」をリリースいたしました。さらに2026年９月には、「カイクラ」に蓄積された会話履歴・顧客情報と連携し、電話応対そのものを自動化するAI電話「カイクラ電話番」の開発を公表するなど、「AIコミュニケーション統合プラットフォーム」としての進化を着実に進め、顧客対応業務のさらなる自動化・高度化を通じて提供価値の向上を図りました。

また、AI領域における開発力の一段の強化を目的として2026年６月に締結した株式会社フィックスターズとの資本提携契約に基づき、2026年７月に同社グループを割当先とする第三者割当による新株式の発行（調達資金99,400千円）を完了いたしました。調達した資金は「カイクラ」における生成AI関連機能（AI電話、AIチャット等）の開発及び機能向上のための費用に充当しており、両社の技術的知見を組み合わせることで、AI機能の開発スピードと品質の向上を一層加速させております。

この結果、売上高は1,332,234千円（前年同期比24.6%増）となりました。

また、サーバー利用料やカイクラアダプター費用、これらの設置費用などにより売上原価を277,169千円、および人件費や広告宣伝費などにより販売費及び一般管理費を1,344,770千円計上しております。この結果、営業損失は289,705千円（前年同期は58,660千円の営業利益）となりました。さらに、受取利息や支払利息を計上した結果、経常損失は293,603千円（前年同期は59,992千円の経常利益）、法人税等が3,629千円発生したことから、四半期純損失は297,232千円（前年同期は46,544千円の四半期純利益）となりました。

なお、当社の事業セグメントは、単一セグメントでありますので、セグメント別の記載は省略しております。

（２）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第３四半期会計期間末における流動資産合計は914,510千円となり、前事業年度末に比べ211,785千円減少いたしました。これは、主に現金及び預金が348,284千円減少、売掛金が19,305千円増加、商品が36,628千円増加したことなどによるものであります。

固定資産合計は234,043千円となり、前事業年度末に比べ80,653千円増加いたしました。これは、主に有形固定資産合計が29,784千円増加、無形固定資産合計が7,096千円減少、投資その他の資産合計が57,965千円増加したことなどによるものであります。

この結果、資産合計は1,148,553千円となり、前事業年度末に比べ131,132千円減少いたしました。

（負債）

当第３四半期会計期間末における流動負債合計は251,850千円となり、前事業年度末に比べ19,631千円増加いたしました。これは、主に未払金が56,327千円増加、買掛金が18,701千円増加、契約負債が10,840千円増加、短期借入金が30,000千円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は251,850千円となり、前事業年度末に比べ19,631千円増加いたしました。

（純資産）

当第３四半期会計期間末における純資産合計は896,703千円となり、前事業年度末に比べ150,763千円減少いたしました。これは、四半期純損失297,232千円の計上、第三者割当等の新株予約権の行使による資本金73,234千円の増加及び資本剰余金73,234千円の増加によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、2026年２月13日に「2025年12月期　決算短信[日本基準]（非連結）」で公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、業績予想は、本資料の発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （2025年12月31日）	当第３四半期会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	984,502	636,217
売掛金	79,088	98,394
商品	19,066	55,695
その他	44,158	124,720
貸倒引当金	△520	△517
流動資産合計	1,126,296	914,510
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	33,889	48,007
工具、器具及び備品	30,054	56,867
減価償却累計額	△21,071	△32,219
有形固定資産合計	42,871	72,655
無形固定資産		
ソフトウエア	49,433	69,011
ソフトウエア仮勘定	27,076	―
その他	3,298	3,700
無形固定資産合計	79,808	72,711
投資その他の資産		
敷金	30,542	72,847
破産更生債権等	－	54
貸倒引当金	－	△54
その他	167	15,827
投資その他の資産合計	30,709	88,675
固定資産合計	153,389	234,043
資産合計	1,279,685	1,148,553
負債の部		
流動負債		
買掛金	22,316	41,018
短期借入金	60,000	30,000
未払金	44,495	100,823
未払法人税等	7,919	6,592
契約負債	35,801	46,642
その他	61,685	26,774
流動負債合計	232,219	251,850
負債合計	232,219	251,850
純資産の部		
株主資本		
資本金	397,249	470,483
資本剰余金	710,874	784,109
利益剰余金	△60,657	△357,890
株主資本合計	1,047,466	896,703
純資産合計	1,047,466	896,703
負債純資産合計	1,279,685	1,148,553

（２）四半期損益計算書

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	1,069,319	1,332,234
売上原価	184,837	277,169
売上総利益	884,481	1,055,064
販売費及び一般管理費	825,821	1,344,770
営業利益又は営業損失（△）	58,660	△289,705
営業外収益		
受取利息	1,509	2,421
違約金収入	470	27
その他	58	151
営業外収益合計	2,038	2,600
営業外費用		
支払利息	706	670
事務所移転費用	－	2,518
株式交付費	－	1,882
支払手数料	－	1,427
その他	0	－
営業外費用合計	706	6,498
経常利益又は経常損失（△）	59,992	△293,603
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	59,992	△293,603
法人税、住民税及び事業税	9,322	3,629
法人税等調整額	4,124	－
法人税等合計	13,447	3,629
四半期純利益又は四半期純損失（△）	46,544	△297,232

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第３四半期累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	15,808千円	25,133千円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、カイクラ事業のみの単一セグメントであり、重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。